

災害支援と活動の実際 I

研修のねらい

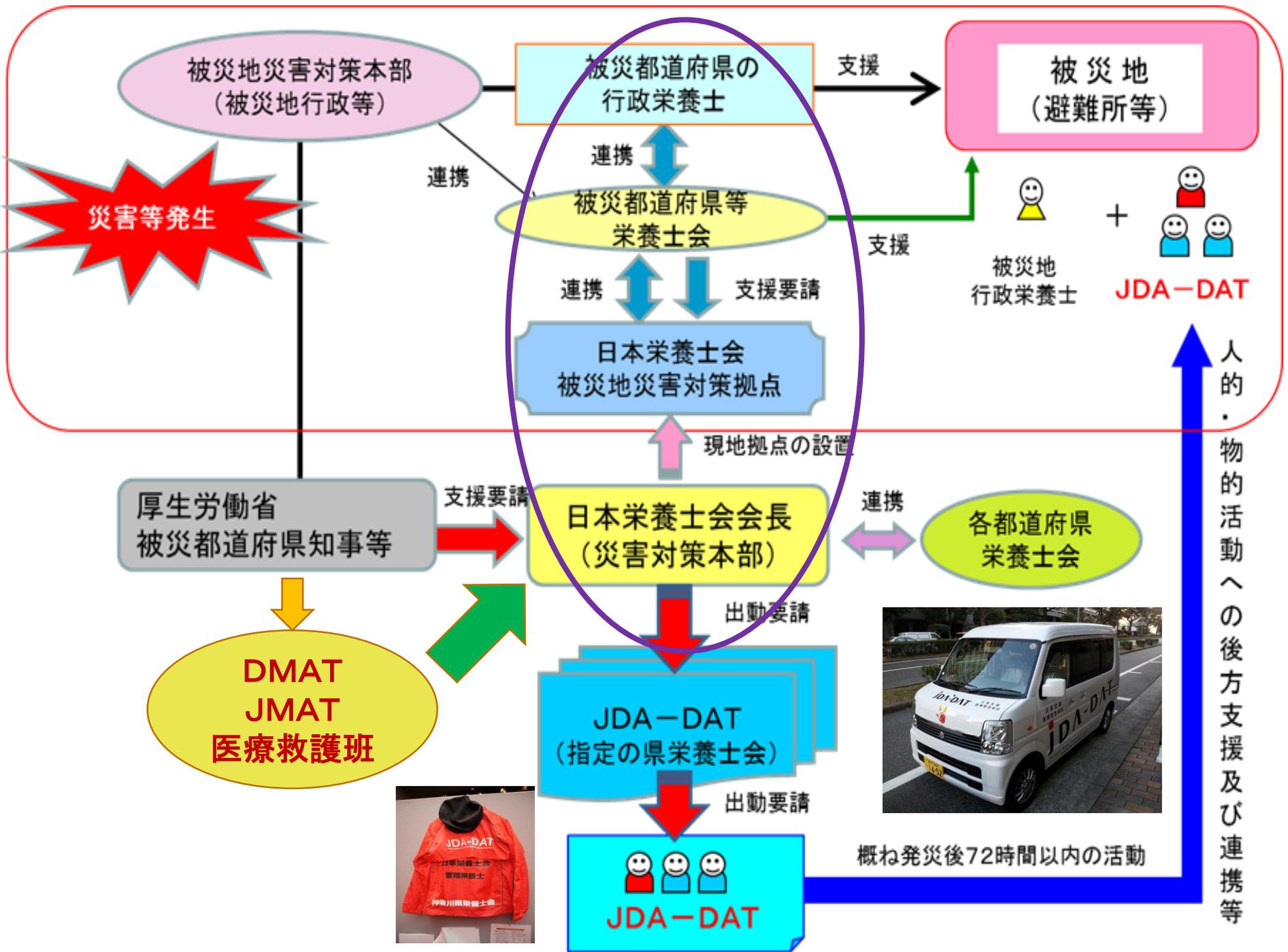
- JDA - DATの意義と役割を理解する。
- 大規模災害への体系的アプローチを理解し、実践できる。
- 災害時支援活動の特徴を認識し、行動できる。
- 継続的にスキルを高める努力をする。

JDA-DATとは？



JDA-DATとは「災害発生地域において栄養に関する支援活動ができる**専門的トレーニングを受けた**栄養支援チーム」と定義しており、日本栄養士会災害支援チーム The Japan **Dietetic** Association — **Disaster Assistance Team**の頭文字をとって略して**JDA-DAT** (**ディーダット**) と呼びます。

災害支援管理栄養士等2～3名と被災地管理栄養士等1名で構成され、**国内外で大規模災害が発生した地域において、避難所、施設、自宅、仮設住宅等で被災者に対する栄養に関する支援活動ができる専門的なトレーニングを受けた栄養支援チーム**です。



被災地災害対策本部
(被災地行政等)

被災都道府県の
行政栄養士

支援

被災地
(避難所等)

災害等発生

連携

連携

被災都道府県等
栄養士会

支援



+



被災地
行政栄養士

JDA-DAT

連携

日本栄養士会
被災地災害対策拠点

現地拠点の設置

厚生労働省
被災都道府県知事等

支援要請

日本栄養士会会長
(災害対策本部)

連携

各都道府県
栄養士会

DMAT
JMAT
医療救護班

出動要請

JDA-DAT
(指定の県栄養士会)

出動要請

JDA-DAT



概ね発災後72時間以内の活動



人的・物的活動への後方支援及び連携等

JDA-DATの条件

- ・急性期に活動する（概ね72時間以内）
- ・機動性を有する
- ・専門的トレーニングを受けた
- ・栄養に関して緊急を要する支援を行うことを目的とする栄養支援チーム
- ・広域に対応できる
- ・自己完結性を有する

(活動内容)

第2条 JDA-DATは原則、被災地内において次の活動を行うこととする。

(1) 被災地内の医療・福祉・行政栄養部門と連携し、情報の収集・伝達・共有化を図り、**緊急栄養補給物資の支援**等を行う。

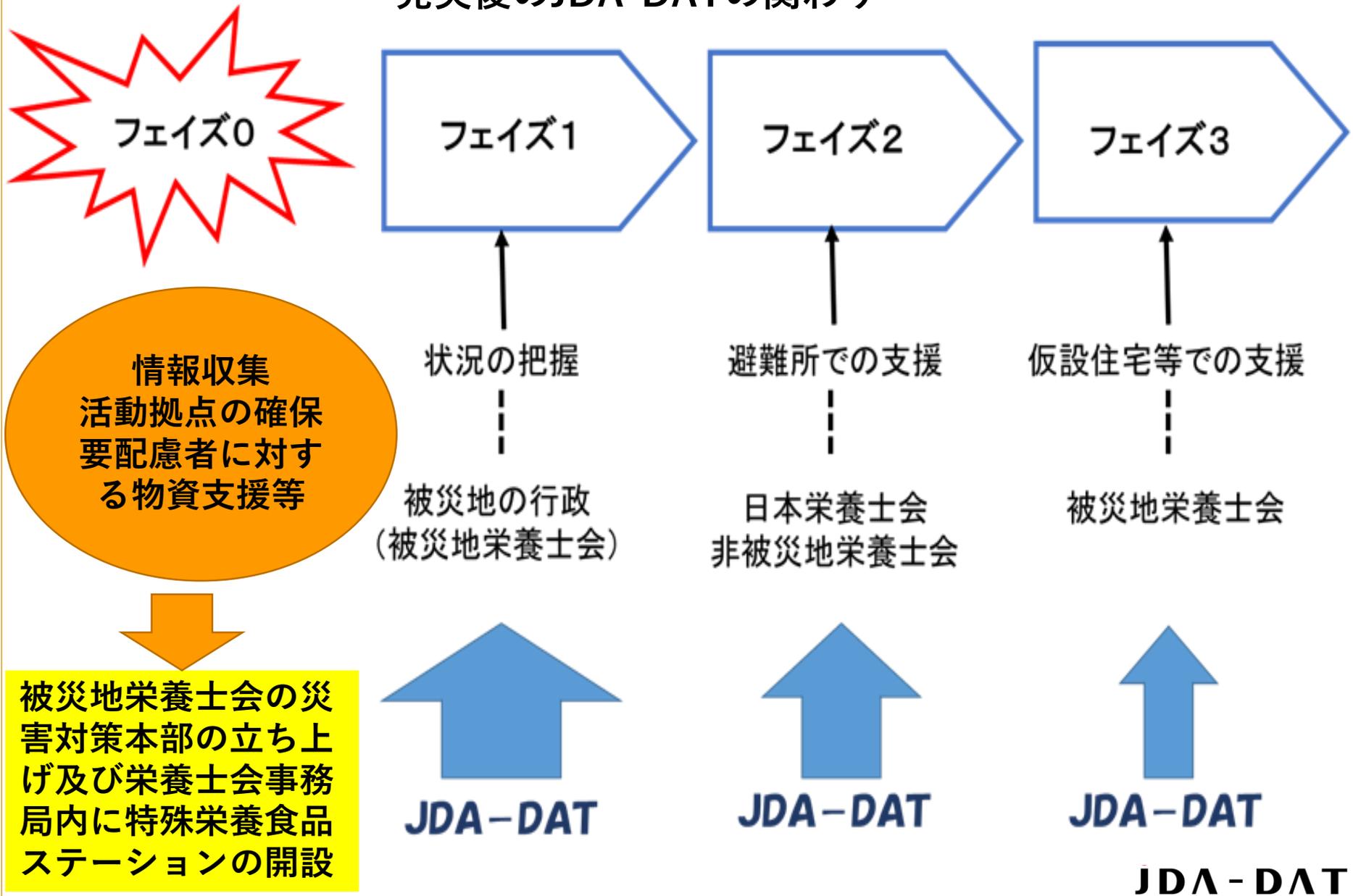
(2) 被災施設及び避難所等の責任者の許可のもと、**被災者への栄養補給等の支援**を行う。

(3) 被災地内での**個人の被災者に対して、直接栄養補給等の支援**を行う。

2 JDA-DATは、前項の活動以外に、被災地内での対応の困難な被災者がいる場合は、医療機関等に連絡し必要な対応を行う。

3 JDA-DATは、**移動・搬送手段、調製粉乳、栄養製品等の栄養補給食品の調達、生活手段等については、自ら確保しながら継続した活動を行う**ことを基本とする。ただし、特殊な栄養製品の確保等、必要が認められる場合は、日本栄養士会会長に支援を要請することができる。

発災後のJDA-DATの関わり



被災地栄養士会の災害対策本部の立ち上げ及び栄養士会事務局内に特殊栄養食品ステーションの開設

被災地

被災市町村

JDA-DAT要請

都道府県

日本栄養士会

JDA-DAT要請

JDA-DAT要請

都道府県
栄養士会

出動要請

隣接する都道府県栄養士会JDA-DAT

近距離の都道府県栄養士会JDA-DAT

遠距離の都道府県栄養士会JDA-DAT

・ 到着時間にずれが生じる
時間のずれにより役割や活動内容が変わる。

(出動基準)

第12条 JDA-DATの出動基準は、次のとおりとする。

(1) 被災地内において、災害により複数以上の**大規模避難所**が設置されると見込まれる場合

(2) 前号に定める場合のほか、被災地内において災害が発生し、**被災者の栄養管理が必要**と判断され、JDA-DATが出動し対応することが効果的であると認められる場合

(3) 国あるいは都道府県、都道府県栄養士会等からJDA-DATの**出動要請**があった場合

初動対処の流れ

緊急事態の発生

マスコミ情報

民間公共機関

関係省庁

日本栄養士会
事務局

第一報

日本栄養士会長

日本栄養士会 専務・常務

報告・指示

第一報

報告・指示

日本栄養士会災害対策本部の設置

日本栄養士会JDA-DAT事務局

指定栄養士会JDA-DATの招集

出動

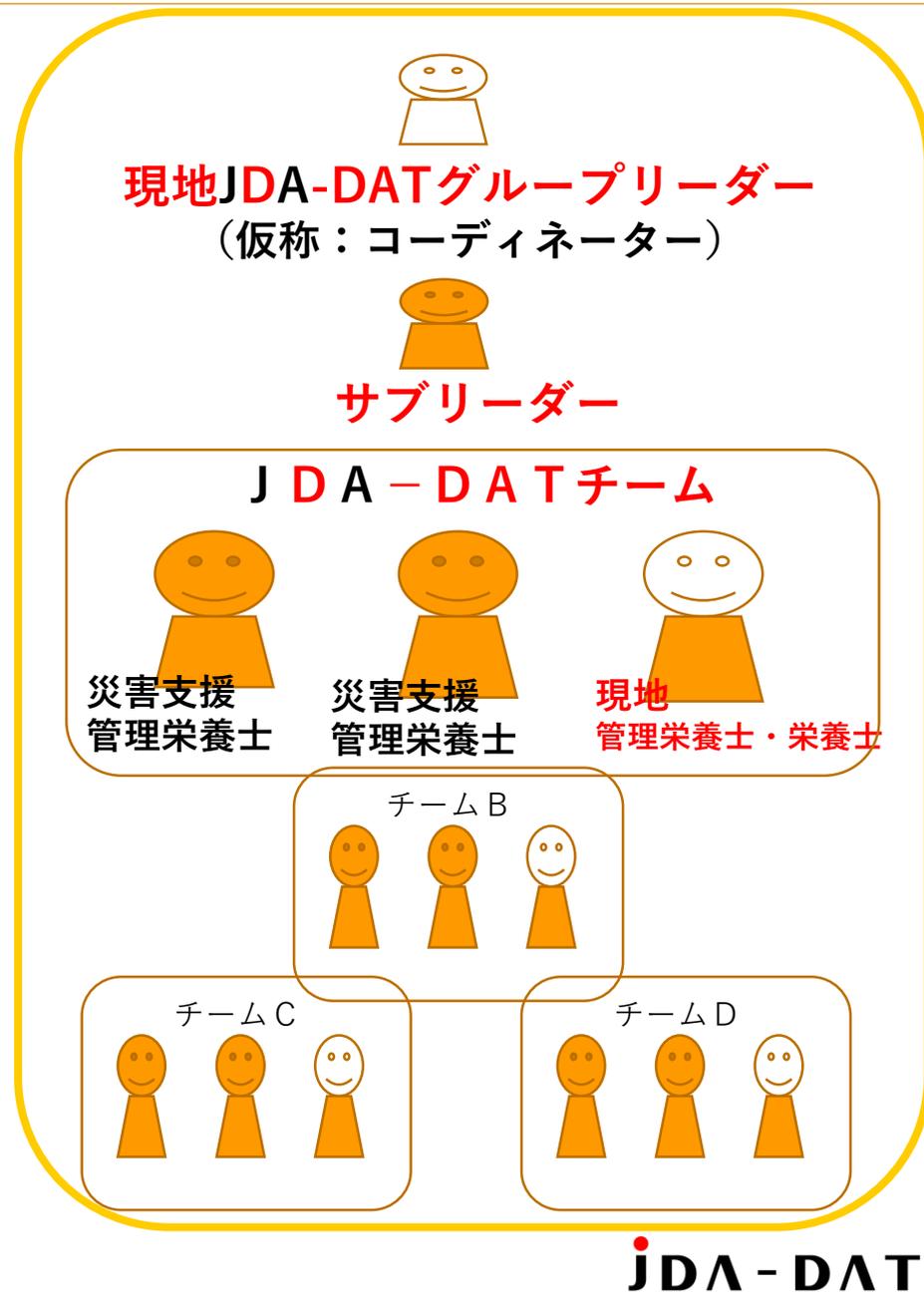
出動要請

JDA-DAT

JDA-DATの1チーム編成図

JDA-DATの編成（第6条）

JDA-DATは、指定栄養士会のスタッフとリーダーをもって編成することを基本とし、実際の活動時には**被災地の管理栄養士又は栄養士を1名以上を含む計4～5名程度で編成するものとする。**



JDA-DAT

JDA - DAT運営要綱より

求められるスキル

ア 非常時の支援活動に必要な能力

- [1] 判断力
- [2] 行動力
- [3] 実行力
- [4] リーダ－シップ
- [5] 臨機応変の対応能力
- [6] 人間関係の調整能力
- [7] 協調性
- [8] 主体性

イ 災害時での栄養の専門スキル

- [1] 食品
- [2] 臨床（糖尿病・腎臓病・高血圧症・透析・
経管等）
- [3] 在宅（褥瘡）
- [4] ケア（老人・障害）
- [5] 食育
- [6] 妊産婦
- [7] 給食管理
- [8] その他

JDA - DAT 専門的研修内容

● 専門的トレーニングとは？

初動体制、災害への理解、役割、栄養アセスメント、嚥下食、アレルギー食、離乳食、慢性疾患などへの栄養指導、簡単な食事レシピ作成力、被災者を理解し、悲嘆にある人とのコミュニケーションのあり方、何がそこで求められているか状況把握し、対応する力、連携、情報収集、精神・心理ケア、家族ケア、ご遺体への対応、チームメンバー自身及び他の支援者の健康・安全、メディア対応、外国語等々

JDA - DATスタッフ研修内容・時間

(1) 養成研修 (18時間、内6時間は訓練・演習研修)

ア 災害への理解 (180分)

JDA - DATの意義と役割、関連法令、災害時の実際

イ 栄養アセスメント (360分)

栄養・食生活面の要援護者のためのアセスメント及び指導

ウ コミュニケーションスキル (180分)

被災者を理解し、精神・心理面を注意したコミュニケーションのあり方

エ 臨機応変の対応能力 (180分)

その場の状況を把握し、即対応する能力、自身の健康・安全管理

オ 応急措置・救急 (180分)

その場で発生する生命(健康)危機管理時の対応能力

JDA - DATスタッフ研修内容・時間

(2) 教育研修 (6時間、内3時間は訓練・演習研修)

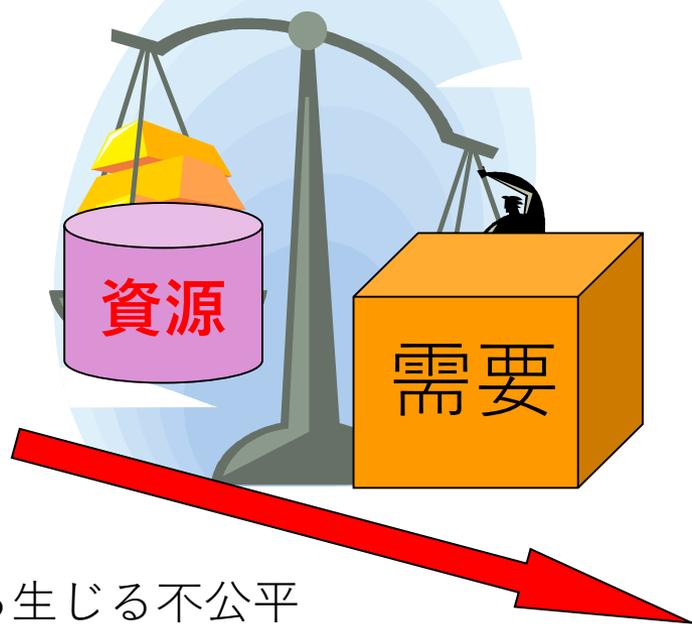
ア 栄養アセスメント及びコミュニケーションスキル (180分)

最新の情報に基づく栄養アセスメント及びコミュニケーションのあり方

イ 臨機応変の対応能力、応急措置・救急 (180分) 状況を把握及び即対応能力の向上

被災地において緊急救援活動を行う上で最も重要なことは、被災者の救済を第一に考えることである。その上で、管理栄養士・栄養士として、主に食事や栄養補給の活動についての支援が求められる。

アンバランス



公平から生じる不公平
平等から生じる不平等



より大きな不均衡が、より壊滅的な結果をもたらす。

C S C A T T T

～大規模事故・災害への体系的な対応に必要な項目～

C: Command&Control

指揮と連携

S: Safety

安全

C: Communication

情報伝達

A: Assessment

評価

T: Triage

トリアージ

T: Treatment

治療

T: Transport

搬送

対応の
運営部分

提供
される
医療支援

栄養と食に関して

1. Command&Control 指揮と連携

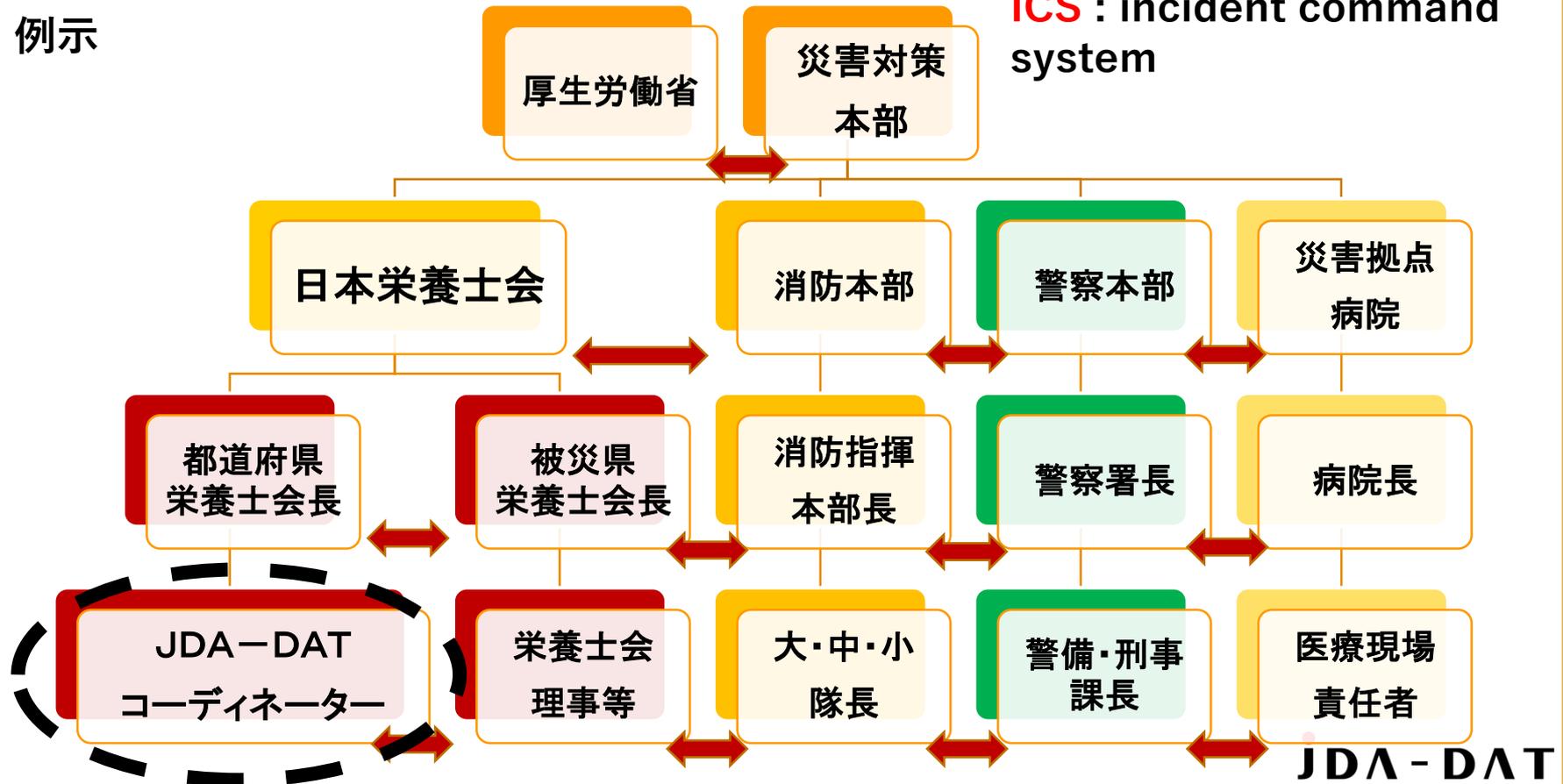
Command 指揮命令
Control 統制・連携・調整

JDA-DATの
場合を考える。

確立すべきは縦の指揮命令系統（ICS）と横の連携（ネットワーク）

ICS : incident command system

例示



愛媛県庁内の医療調整本部



2. Safety 安全

3 S

1. 自分 (SELF) 自己責任
2. 現場 (SCENE)
3. 生存者 (SURVIVOR)

まずは自分の安全確保、ついで、その部署の安全性を確認・確保（建物、火災、医療ガスの漏れ等）、同時にスタッフ、入院患者、面会者等の安全を確認・確保（病院等施設の場合）

単に熱意があるというだけで現場に入って活動してはならぬ。
現場で活動するには、それに相応しい知識と、装備が不可欠。



安全行動の1・2・3

1. DROP (ドロップ) : 姿勢を低く!
2. COVER (カバー) : 頭・体を守って!
3. HOLD ON (ホールドオン) :
揺れがおさまるまでじっとして!

落下物に注意し自分の身を守る。
ドアを開けて避難路を確保する。
係員や非常放送の指示に従う。
地震時はエレベーターを使用しない。
建物からむやみに飛び出さない。



3. Communication 情報伝達

大規模事故／災害時対応に失敗する原因で最も多いのは、**情報伝達**の不備である！

MIMMS Advanced course より

情報を制する者は災害を制す

- ◆ 手段 トランシーバー、携帯電話、伝令、インターネットなど
- ◆ 情報の質 内容・精度
- ◆ 情報の量 欠損・過剰
- ◆ 方向 特定の相手、全員
- ◆ 種類 命令、報告、問い合わせ、確認
- ◆ 情報管理 クロノロジー、避難所食事状況など

情報伝達のコツ

誰が (Who) ?

どこに (Where) / 誰に (Whom) ?

何を (What) ?

いつ (When) ?

どのように (How) ?

5W1Hに基づいた連絡を心掛け、
必ず確認（復唱）する！

災害時に収集すべき情報

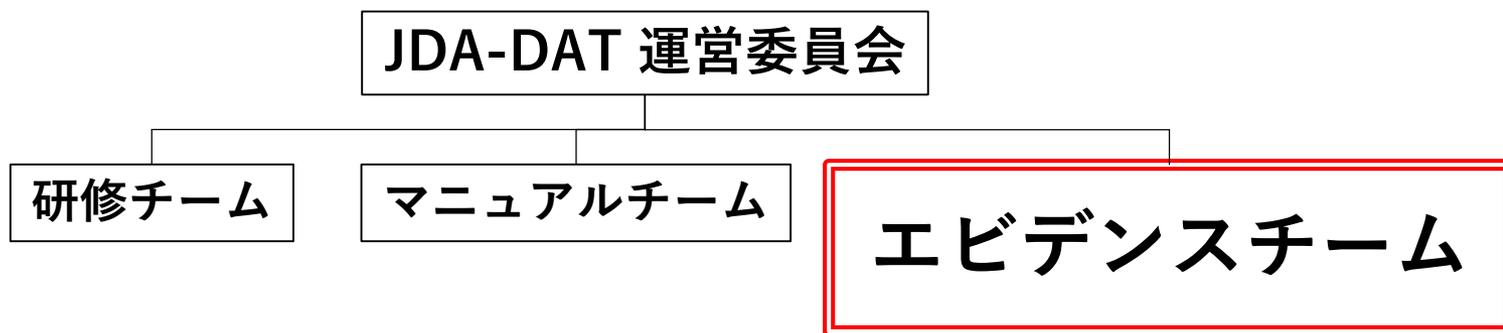
METHANE Report

- M** Major incident : 大事故災害 「待機」または「宣言」
- E** Exact location : 正確な発生場所 地図の座標
- T** Type of incident : 事故・災害の種類
鉄道事故、化学災害、地震など
- H** Hazard : 危険性 現状と拡大の可能性
- A** Access : 到達経路 進入方向
- N** Number of casualties : 負傷者数 重症度と外傷分類
- E** Emergency services : 緊急対応すべき機関
現状と今後必要となる対応

被災地域および被災地域の栄養士会の状況確認、把握

✓ 被災地域の状況把握

必要情報の共有



広域災害救急医療情報システム

EMIS Emergency Medical Information System

災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼動状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速且つ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としている。

ホワイトボード等で共有すべき情報

1. 経時活動記録（クロノロ）
2. 問題・解決リスト
3. 活動方針
4. 指揮系統図と活動人員、活動内容、役割
5. 主要連絡先
6. 医療施設、福祉施設、避難所等の一覧表
7. 被災状況、現場状況（地図）
8. その他

情報を制する者は災害を制す。

災害現場では情報が重要である。情報処理について理解する。

クロノロジー



時系列活動記録（クロノロジー）

- それぞれのチームの活動を時刻と共に記載
- 本部との調整などの情報を記載
- 記録員の専任
- 決定事項及び未決事項を強調して明記
とにかく全てを書きとめておく

情報のまとめ方

一覧表

指揮系統図



指揮者の得た情報、指示を本部内で共有する。

時刻	発	受	内容(例)
7:00	災対本部	日栄本部	JDA-DAT12チーム活動開始
9:00	日栄本部	災対本部	三重県栄よりJDA-DAT3チーム派遣

避難所食事状況調査票

メディウム 避難所食事状況調査票

1/2ページ

メディウム 避難所食事状況調査票

2/2ページ

調査日 ①	西暦 年 月 日 ()	記入者 ②	あなたの所属A □保健所 ₁ □市町村 ₂ □他自治体 ₃ □栄養士会 ₄ □その他 ₅ :
避難所名 ③	避難所区分 ④		□指定 ₁ □その他 ₂ :
避難者数 ⑤	避難者 _A :計()人 ?→【 □~50人 ₁ □51~100人 ₂ □101~150人 ₃ □151~500人 ₄ □501人~ ₅ 】 在宅避難者等、食事だけ取りこくる人の食数 _B : ()食		
対応してくれた方 ⑥	氏名 _A :	お立場 _B	□避難所責任者 ₁ □食事提供責任者 ₂ □その他 ₃ :
食事提供回数 ⑦	□0回 ₁ □1回 ₂ □2回 ₃ □3回 ₄ /日		飲料水 ⑧ □なし ₁ □不足(1人1日1.5L以下) ₂ □十分 ₃
避難所にいる要配慮者に ⑨	□乳児 _A	人	不足しているものに □減塩食 _A □降圧剤 _B □その他 _C : □エネルギー調整食 _A □内服薬 _B □インスリン _C □その他 _D : □低たんぱく食 _A □低カリウム食 _B □薬 _C □その他 _D : □とろみ調整食品 _A □嚥下調整食 _B □その他 _C :
	□食物アレルギー _B	人	
	□高血圧 _C	人	
	□糖尿病 _D	人	
	□腎臓病 _E	人	
人数把握が難しい場合は ⑩	□摂食嚥下困難者 _F	人	□妊婦・授乳婦 _G
	□その他 _H :		□その他 _I :
使えるライフライン ⑪	□電気 _A	□水道 _B	□上水道 _C
	□ガス(湯を沸かす) _D	□下水道 _E	
	□車による人や物のアクセス _F	□プールの水 _F	

避難所で提供している一般の食事について				左の食事への以下の団体・職種との関与(該当に <input checked="" type="checkbox"/>) _F	
区分	メニュー _B	量 _C	食事区分 _D (あったものに <input checked="" type="checkbox"/>)	食事提供方法 _E (該当に <input checked="" type="checkbox"/>)	関与(該当に <input checked="" type="checkbox"/>)
朝 ⑬ _A			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
□足りている ₁ □足りていない ₂ □提供なし ₃ □不明 ₄			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
昼 ⑭ _A			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
□足りている ₁ □足りていない ₂ □提供なし ₃ □不明 ₄			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
夜 ⑮ _A			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
□足りている ₁ □足りていない ₂ □提供なし ₃ □不明 ₄			□主食(ご飯/パン/麺) _A □主菜(肉/魚/卵/大豆) _B □副菜(野菜/きのこ/芋/海藻)(野菜ジュース等含む) _C □牛乳・乳製品 _D □その他 _E :	□炊き出し _A □弁当 _B □支援物資(調理不要) _C □備蓄品(調理不要) _D □その他 _E :	□自衛隊 _A □栄養士 _B □その他 _C : □いずれも関与せず _D □不明 _E :
間食、菓子類 アルコール等 ⑯					

環境・衛生面 ⑫	保冷設備(冷蔵庫) _A	□有り ₁ □有りだが使用不可 ₂ □無し ₃
	調理者の手洗い _B 現状に <input checked="" type="checkbox"/>	□アルコール消毒 ₁ □流水洗浄 ₂ □不明 ₃
	喫食者の手洗い _C 現状に <input checked="" type="checkbox"/>	□アルコール消毒 ₁ □流水洗浄 ₂ □不明 ₃
	トイレ _D 使用可に <input checked="" type="checkbox"/>	□元のトイレ ₁ □仮設トイレ()基 ₂ □ポータブル()基 ₃
	土足禁止エリア _E に <input checked="" type="checkbox"/>	□調理スペース ₁ □避難スペース ₂ □不明 ₃
被災者の 身体・口腔状況 ⑬	使える炊き出し資源 _F に <input checked="" type="checkbox"/>	□調理器具 ₁ □人手 ₂ □スペース ₃ □食材 ₄ □熱源(カセットコンロ・ガスボンベ等) ₅ □その他 ₆ :
	欲しい電気調理機器 _G に <input checked="" type="checkbox"/>	□電子レンジ ₁ □電気ポット ₂ □その他 ₃ :
	身体・口腔状況に問題がある人 _A	□いる(下のリストへ) ₁ □いない ₂ □不明 ₃
	該当者 _B に <input checked="" type="checkbox"/>	□風邪、熱など体調不良 ₁ □エコミークラス症候群ハイリスク者 ₂ □下痢、便秘、嘔吐など ₃ □皮膚症状 ₄ (アトピー性皮膚炎等) □感染症 ₅ (インフルエンザ・ノロウイルス・破傷風など) □口内炎 ₆ □ぜんそく ₇ □不眠 ₈ □食欲不振 ₉ □その他 ₁₀ :
	その他身体・口腔状況(自由記述) _C	
気が付いたこと ⑭	利用可能な人材 _A (助産師、調理員、手話通訳者など)	
	その他 _B (宗教上のタブーがある人やその他問題点など)	
その他の 支援物資 ⑮	不足しているもの _A	
	余っているもの _B	

プロブレムリスト

緊急度

栄養剤
の不足

最優先

アレルギー
食品の手配

特殊ミル
クの搬送

避難所の食事
内容の早期改善

嚥下困難食
の手配

野菜摂取
不足

重要度

JDA-DAT

4. Assessment 評価

それぞれの場、局面における評価

現場であれば

現場評価 Rapid scene assessment / Initial size up

- ・ 避難所の位置、移動手段（交通）
- ・ Hazardの拡大はないか
- ・ 食品・資器材等の過不足
- ・ 支援チームの交代の必要性
- ・ 医療救援チーム等との連携状況
- ・ 栄養支援を行った人数・件数・内容等

繰り返し評価し、次の戦略を検討する。

マネジメント・サイクル

次回のP

今回のPDCAをふまえて、
新たな計画をたてる

Cをふまえて、
対策を講じる、
問題解決を図る。

報告

繰り返すにより人材育成が可能

Act

活動計画を立てる・周知

Plan

業務改善
問題解決

リーダー
(行政)

スタッフ
(JDA-DAT)

指示

コミュニケーション情報伝達・
人間関係

指示

情報収集・評価

Check

PとCを比較し、
検証する

報告

Do

Pを実施する

スタッフ
(JDA-DAT)

リーダー
(行政)



リーダーにとっては、マネジメント・サイクルそのものが、有効なマネジメントを
実践するための技法、すなわち「マネジメント技法」といえる。 **JDA-DAT**

5. Triage トリアージ

災害時のトリアージの概念
「限られた人的物的支援のなかで
最大多数の傷病者に最善を尽くすこと」

災害時要配慮者（災害弱者）

C:child 子供

H:handicapped 障害者

E:elderly people 高齢者

C:chronically ill 慢性疾患(透析・糖尿病等)

T:tourist 旅行者(言葉の通じない人)

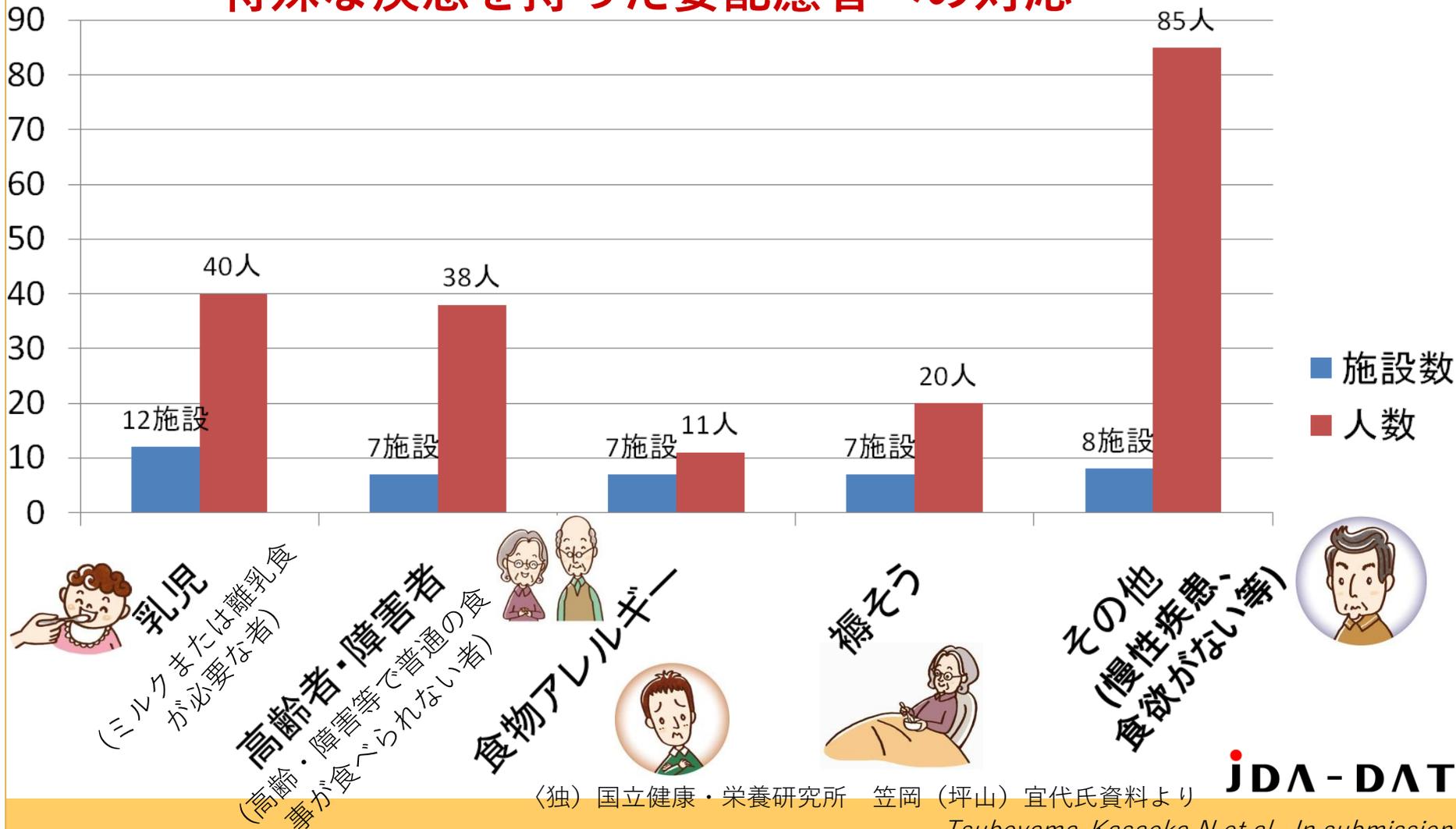
P:pregnant 妊婦



栄養ケアが必要な避難者の内訳

～気仙沼市の避難所における食事供給状況調査（発災24-25日後）～

特殊な疾患を持った要配慮者への対応



〈独〉国立健康・栄養研究所 笠岡（坪山）宜代氏資料より

JDA-DAT

Tsuboyama-Kasaoka N et.al. In submission

6. Treatment 治療

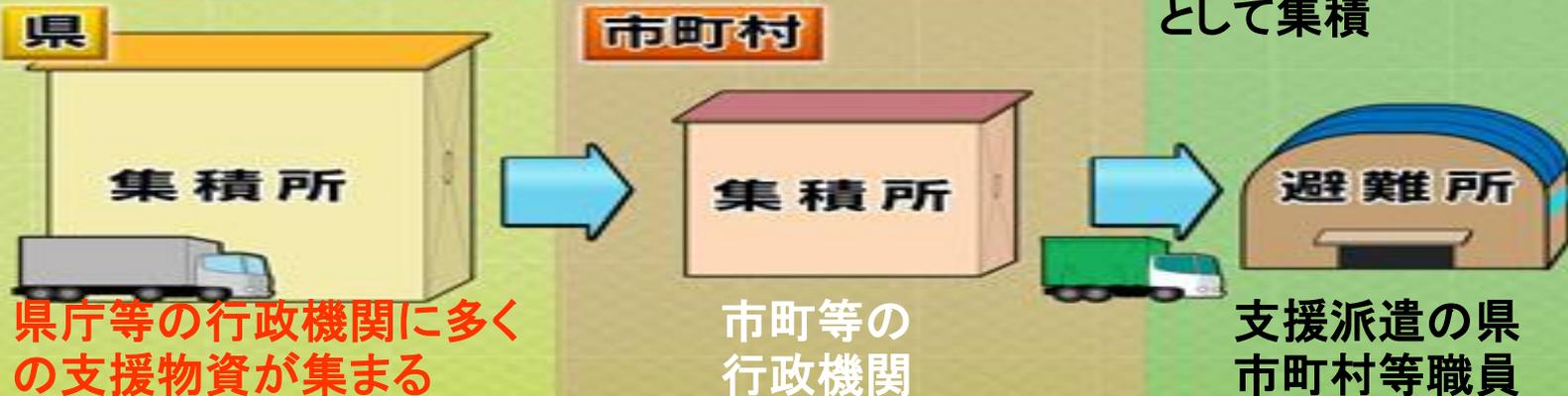
フェーズに応じた栄養・食生活支援活動

フェーズ・	フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
	初動期	緊急対策期	応急対応期	復旧期	復興期
	24時間以内	72時間以内	4日目～2週間	概3週間～1ヶ月	概ね1ヶ月以降
状況	ライフライン寸断	ライフライン寸断	ライフライン徐々に復旧	ライフライン概ね復旧	仮設住宅
想定される栄養課題	食料確保 飲料水確保 要食配慮者の食品不足 (乳児用ミルク、アレルギー食、嚥下困難者、食事制限等)	支援物資到着 (物資過不足、分配の混乱) 水分摂取を控えるため、脱水、エコノミー症候群	避難所栄養過多 栄養不足 栄養バランス悪化 便秘、慢性疲労、体調不良者増加 食生活上の個別対応が必要な人の把握	食事の簡便化 栄養バランス悪化 慢性疾患悪化 活動量不足による肥満	自立支援 食事の簡便化 栄養バランス悪化 慢性疾患悪化 活動量不足による肥満
栄養補給	高エネルギー食		たんぱく質、ビタミン・ミネラル不足への対応		
食事提供	主食(おにぎり・パン等) 水分	炊き出し	弁当		
支援活動	避難所アセスメント、巡回栄養相談				栄養教育、相談

7. Transportation 搬送

従来型 緊急支援物資の流れ

必要な支援物資がない、
逆に不要なものが在庫
として集積



関西広域連合

行政管理栄養士



緊急支援物資の流れ

派遣行政機関職員

派遣行政機関職員

派遣行政機関職員



日本栄養士会
特殊栄養食品
ステーション



栄養CS
管理栄養士



栄養士会等
管理栄養士



施設側
管理栄養士

管理栄養士

連携

管理栄養士



特殊栄養食品ステーションの取り組み

国

県

(企業等からの支援物資を含む)

(公社)
日本栄養士会

* 賛助会員 (企業等)
* 小児アレルギー学会

一般物資

特殊栄養食品 (アレルギー食品
・ 栄養剤他)

熊本県
健康福祉政策課

特殊栄養食品ステーション
(熊本県庁 健康づくり推進課・日本栄養士会共同設置)

① 調達 ② 在庫管理 ③ 配送調整



**特殊栄養食品ステーション
サテライト**
(御船保健所・阿蘇保健所)



御船

益城町

阿蘇

菊池

宇城



緊急支援物資

避難所 ・ 被災者



被災地 災害対策本部

被災地栄養士会は…『被災者』であること

- ・ 災害対策本部の設置
- ・ 地域および会員の被災状況の確認、把握
- ・ 派遣者受入への対応
- ・ 特殊栄養食品等の必要物資の把握、手配
- ・ 自治体との連携 / 現地必要会議への参加
- ・ 取材対応…



日本栄養士会 災害対策本部

被災地外の栄養士会

JDA-DATメンバー

災害発生時の栄養・食生活支援

JDA-DAT

職業倫理

人的支援

情報

時間

栄養状態を良好に保つ

被災者

「栄養」

「食事」

支援物資

体制

支援金・義援金

提供すべき食事内容の検討

食事を提供するための体制づくり

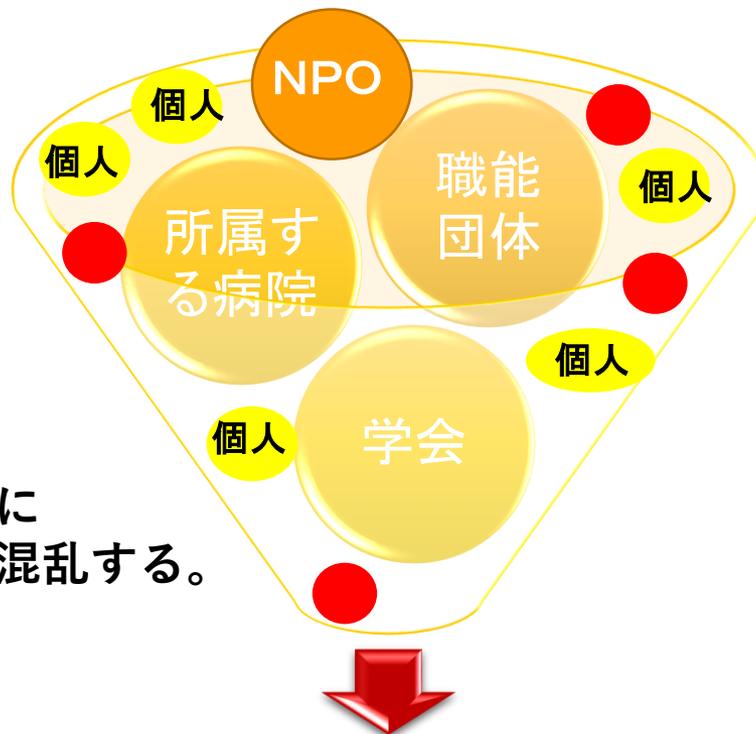
JDA-DAT

いずれが欠けても適切な食事を提供することはできない。

組織目標達成要件（チーム目標・目的）

- 優れたリーダーの存在
 - 方向を示す／達成方法（問題解決方法）
 - 情報の収集／状況判断 等
- チーム目標・目的が明確 理念・方針等
- 目標・目的に向かって一致団結
- 成果・情報が共有化

- ・ 何故、所属する職能団体による派遣として、JDA-DATが必要なのか？
- ・ 管理栄養士・栄養士として、有資格者なのだから、各自が思い思いに自由に活動して何が悪いの？



関連団体や個人が別々に入れば、本部や現場が混乱する。



災害医療本部の負担の軽減

JDA-DAT

「栄養の事は**日本栄養士会 JDA-DAT**に任せる」と言ってもらおう。

JDA-DAT

災害時の支援活動の特徴

- 支援の状況は時々刻々と変化する
- 災害時支援活動には、固定したシナリオはない
- 既存の知識・技術を活用し、かつそれらを結び合わせる必要がある
- **個と全体との「間」を考慮しながら活動することが必要**

隙間がある、それをつなぎ合わせる、リーダーの役割

ダボ(太柄、駄柄、ドイツ語 : Dübel) の役割が必要

- 被災者との協働が必要 (自立援助)

支援側の「何かしたい」「できること
はないか」という気持ち・思いに感謝

その思いを被災地に届けたい



思いが強すぎると逆に負担

被災地での支援は、管理栄養士・栄養
士としての個人の顔だけではない

現地での個々人の言動が、管理栄養士・栄養士全体の評価に…

被災現場へ行くだけが支援ではない

後方支援 派遣者のフォロー、事務的処理

計画、予定はその通りにいかないこと
が多い。臨機応変な対応。

組織体制をしっかりとつくり、役割分担していくこと

**誰が、どこで、どんな役割でも担えるよう、
日頃からのシミュレーションが大切 !!**

それぞれの職種が最高のパフォーマンスを繋いで
スクラムを組んで課題にぶつかる。

連携

JRAT・DPAT等

医療関連職種

JDA-DAT

DMAT・JMAT・日赤

医療・介護

宿泊

食事

ライフライン

運動

衛生・トイレ

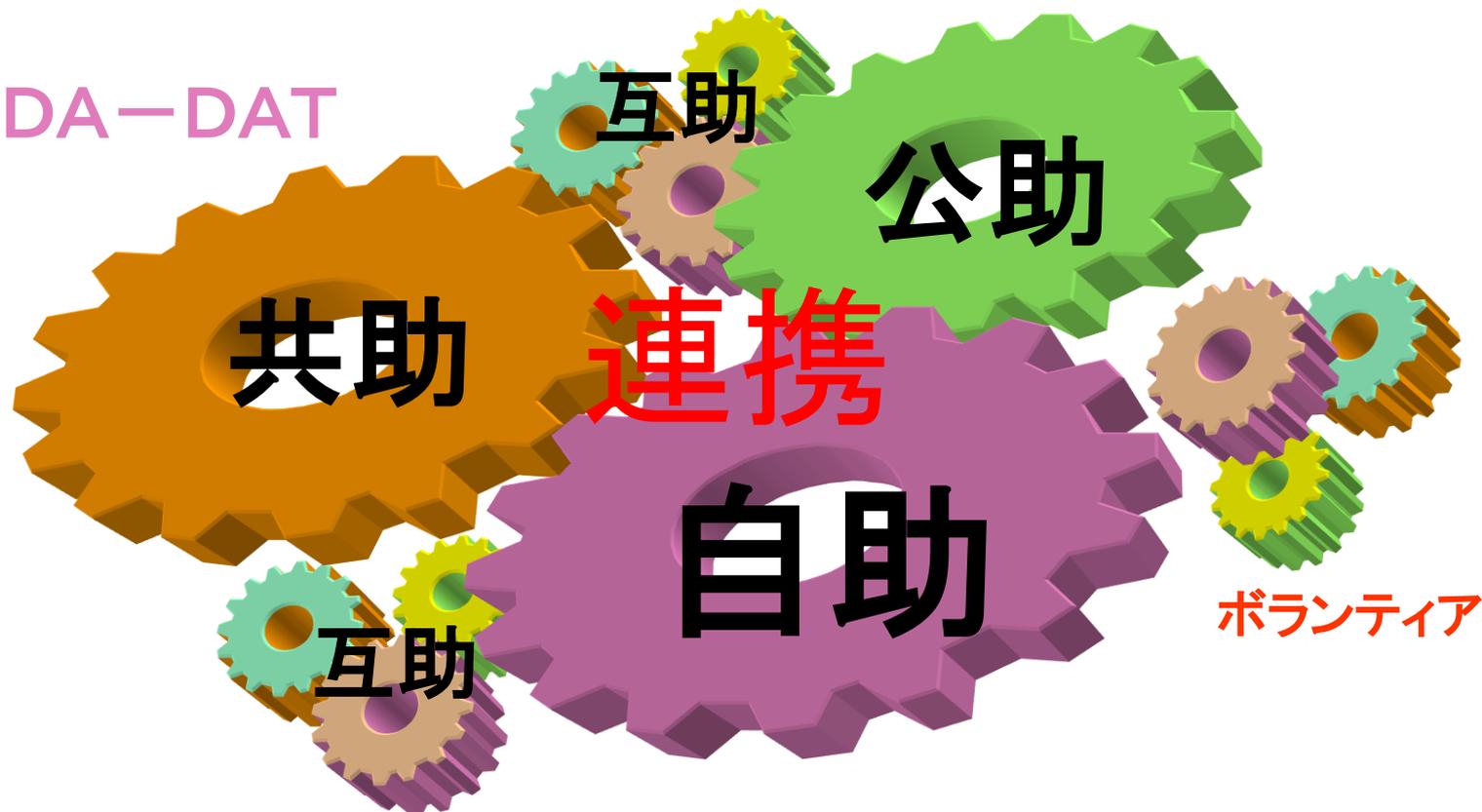
心のケア

避難所等での様々な問題

JDA-DAT

リスクマネジメントにおける災害時の食と健康への対応の考え方

JDA-DAT



平常時からの備えが最も重要であり、対策を推進する。

自己実現：スキルアップ

JDA-DAT

災害時の食・栄養状態を改善するには



両方を並行して実施

DHEAT

行政栄養士

情報共有



集団（避難所）
全体の底上げ

ポピュレーション
アプローチ



要配慮者（災害弱者）
の個別ケア

ハイリスク アプローチ

行政組織との連携

被災者の栄養・
食生活改善

多職種との連携

JDA-DAT

Heart 心 絆・ささえあい ~教訓を繋ぐ

医療救護班等により、せっかく助けられた命、助かった命を繋ぐため、アレルギーや低栄養、過栄養、慢性疾患、生活不活発等から生じる「食と栄養」の問題で間接死を招くことがないように、事前に災害時における栄養管理の対策を図っておくことが、我々管理栄養士・栄養士の重要な役割である。

～食べることは、生きること～



災害支援と活動の実際 I

研修のまとめ

■JDA - DATの意義と役割を理解する。

- ・ 災害で生じた、食事や栄養補給に関する需要と資源のアンバランスを、早期に解決することが重要である。

■大規模災害への体系的アプローチを理解し、実践できる。

- ・ 適切な支援（TTT）を行うためには、管理・運営（CSCA）の体制構築が必要である。

■災害時支援活動の特徴を認識し、行動できる。

- ・ 支援の状況は時々刻々と変化する。専門職以外の支援が必要なこともある。

■継続的にスキルを高める努力をする。

- ・ 災害は突然やってくる。日頃からの準備が大切。